

タグチ工業

適用範囲		型 式		DF-11S	DF-21S	DF-11A	DF-21A
		質 量 kg		120	140	120	140
		取付可能機体質量（単位 t）		1～1.5	2～2.5	1～1.5	2～2.5
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検 査 基 準 値			
旋回装置	旋回ベアリング	取付ボルトサイズ（外輪）	mm	10	10	10	10
		締付トルク	N・m	72.5	72.5	72.5	72.5
			kg・m	7.4	7.4	7.4	7.4
		取付ボルトサイズ（内輪）	mm	10	10	10	10
		締付トルク	N・m	72.5	72.5	72.5	72.5
			kg・m	7.4	7.4	7.4	7.4
油圧装置	シリンダー	開閉シリンダー		図 6-9	図 6-9	図 6-9	図 6-9
		伸縮量L	mm	20	20	20	20
		測定時間	分	5	5	5	5
圧碎・切断部	カッター	カッターの隙間G		図 6-10	図 6-10	図 6-10	図 6-10
		基準値	mm	0.5	0.5	0.5	0.5
		許容限度	mm	1.0	1.0	1.0	1.0
	圧碎ポイント	圧碎ポイントA		図 6-12	図 6-12	図 6-12	図 6-12
		基準値	mm	0	0	0	0
		許容限度	mm	15	15	15	15
		圧碎ポイントB					
		基準寸法	mm	—	—	—	—
		許容限度	mm	—	—	—	—

コンクリート大割圧碎具

D-SRC-211F	D-SRC-351F	D-SRC-211S	D-SRC-351S	D-SRC-211A	D-SRC-351A		
2.490	3.820	2.520	3.840	2.530	3.840		
20～22	30～37	20～22	30～37	20～22	30～37		
検 査 基 準 値							
16	18	16	18	16	18		
313	450	313	450	313	450		
31.9	45.9	31.9	45.9	31.9	45.9		
16	18	16	18	16	18		
313	450	313	450	313	450		
31.9	45.9	31.9	45.9	31.9	45.9		
図 6-9	図 6-9	図 6-9	図 6-9	図 6-9	図 6-9		
40	60	40	60	40	60		
5	5	5	5	5	5		
図 6-11	図 6-11	図 6-11	図 6-11	図 6-11	図 6-11		
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		
2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
図 6-13	図 6-13	図 6-13	図 6-13	図 6-13	図 6-13		
0	0	0	0	0	0		
40	45	40	45	40	45		
図 6-13	図 6-13	図 6-13	図 6-13	図 6-13	図 6-13		
80	105	80	105	80	105		
120	150	120	150	120	150		

1. 開閉シリンダー伸縮量の測定

- ① 圧砕具を地面から浮かせた状態で垂直に保持し、アームを全開状態（シリンダー最縮長）で測定する。
 - ② ショベルのエンジンを停止してからホース内の残圧を抜き、a のストップバルブ（開閉ライン）を左右とも閉じる。
 - ③ L 寸法を測定し、5 分間経過後に再度 L 寸法を測定、その差を伸縮量とする。
- ※ ツインシリンダー型の場合は、左右 2 本のシリンダーを測定すること。

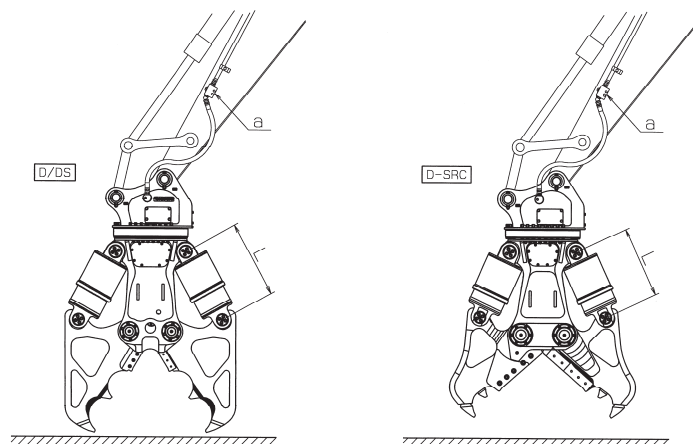


図 6-9 開閉シリンダーの伸縮量測定姿勢

2. カッターの隙間測定

- ① 全閉状態（シリンダー最伸長）で測定する。
- ② 隙間ゲージにより G 寸法を測定する。

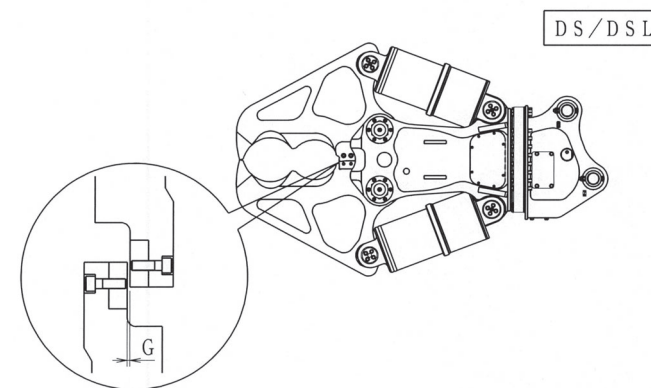


図 6-10 カッターの隙間測定

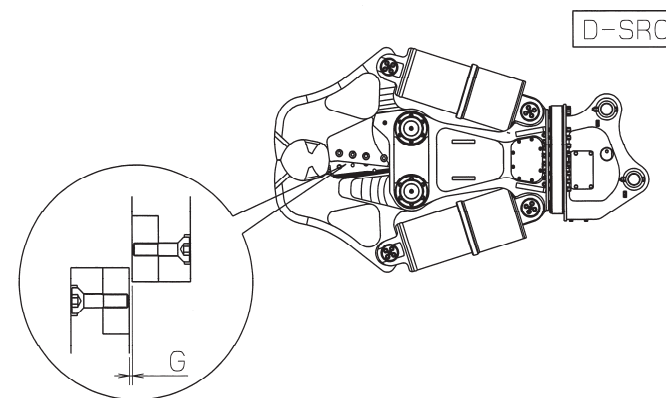


図 6-11 カッターの隙間測定

3. 圧砕ポイントの測定

- ①圧砕具を地面から浮かせた状態で垂直に保持し、全閉状態（シリンダー最伸長）で測定する。
- ②A先端ポイント・B中間ポイントの隙間を測定する。

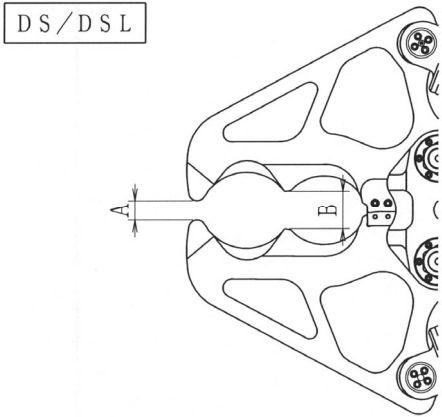


図 6-12 圧砕ポイントの測定

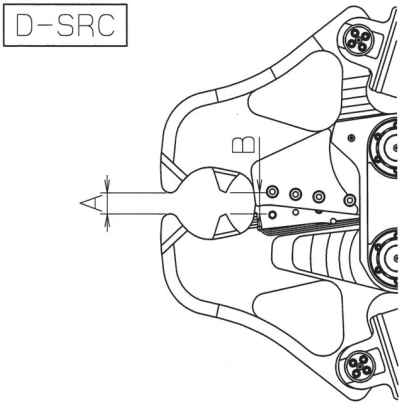


図 6-13 圧砕ポイントの測定